

ヨシ腐葉土好評発売中!

当財団では、琵琶湖に美しいヨシ原を取り戻すために冬季に琵琶湖全体のヨシの刈り取りを行っております。

古くから、刈り取ったヨシはヨシ簀等に利用されてきましたが、財団では、従来から菊づくりのプロが、ヨシ・カヤでつくった腐葉土を用いて好成績を上げておられることに着

目し、ヨシの新しい利用法としてヨシ腐葉土を製作し、財団のオリジナルブランドとして、菊・朝顔づくりの専門家を中心に販売いたしております。

この腐葉土は、透水性・通気性に優れ、根張りが良くなり、根腐れの心配もないため、菊・朝顔だけでなくガーデニング等の土づくりの素材としても最適と存じますので、一度お試しください。



◆販売価格 1袋(元入れ20リットル)500円(税別)

◆送料 実費(20袋以上のご注文の場合は、県内無料)

◆問合せ・注文先 財淡海環境保全財団
※滋賀県種苗生産販売協同組合加盟の種苗店、
株アヤハディオの各店でも取り扱っています。

編集後記

先日、第3回世界水フォーラムに関連する情報収集のついでに滋賀県立琵琶湖博物館を再訪し、あらためて心に残ったものがありました。1つはA展示室「琵琶湖のおいたち」ゾーンの隅にさりげなく展示されている「未来の地層」。琵琶湖の過去の堆積物を断面模型で見せながら、未来のそれも組み込んだユニークな発想の展示品です。その未来の地層にはコーヒーカップやペットボトルが原形をとどめていました。荒涼としたむなしさを感じさせる光景であり、確かにこのような未来が訪れることを実感させるものでした。もう1つはC展示室「湖の環境と人びとの暮らし」ゾーンにある昭和39(1964)年の典型的な農村の民家の移築・再建。すでにテレビなどもお茶の間にあるのですが、洗いものは村の水路から取り込んだ洗い場で行われ、汚水は外へは出さず、汚水槽にためて畑の肥料になるようになっていました。少し前まで、このような知恵と気配りが生きていたことに感じ入りました。

原稿の募集について

機関誌「明日の淡海」では、環境や自然に関心のある方々の意見・提言などを募集しています。

- ・環境問題に対する考えや環境施策への意見・提言等
- ・環境に優しい暮らしにつながる意見・提言等
- ・美しい自然や自然保護に対する意見・提言等

※採用分には薄謝進呈

※当財団まで郵送・メール又はFAXでお送り下さい。

発行 財団法人 **淡海環境保全財団**
〒520-0807 大津市松本一丁目2番1号
☎ 077-524-7168 ☎ 077-524-7178
E-mail ohmi9@mx.biwa.ne.jp
URL <http://www.biwa.ne.jp/ohmi9/>
編集・制作 アド・プロヴィジョン株式会社